

みんなで作った！

貫校区 小地域福祉活動第一次計画

ほのぼのした おせっかいのまち 貫

～自然豊かな やさしさあふれる まちづくり～

2023～2027



ふれあいネットワーク

貫 校区社会福祉協議会

ごあいさつ

貫校区では、社協のかかげる基本理念「住民みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり」を目指して、地域住民や社会福祉関係者が協力して地域福祉活動を進めてきました。ふれあいネットワーク活動にも平成6年より取り組み、「自分たちの地域の福祉課題は、自分たちが解決していく」という目的の下、ふれあい委員会を設置し、見守り・話し合い・助け合いの活動を中心に小地域福祉活動を進めてきました。

現在は、全国的に本格的な少子高齢社会となり、世帯構造についても大きな変換期を迎えています。北九州市においても急速な少子高齢化や、障害を持つ人の増加、孤立死やヤングケアラーの問題など地域の生活課題は多様化しており、地域福祉の重要性を認識します。その中で行政と民間団体との役割分担と協働の指針である「北九州市の地域福祉2021-2025」（北九州市地域福祉計画）が行政により策定され、また行政計画と協働しながら北九州市社会福祉協議会が中心となって地域社会の福祉課題を解決するため「地域共生！きたきゅうプラン2021～2025」（北九州市地域福祉活動第六次計画）が策定されたところです。

貫校区においても、少子高齢化や日々の生活に伴う様々な課題解決に向け、「声かけて笑顔広がる貫校区」のスローガンの下、令和5年度より5年間小地域福祉活動を推進いたします。地域の福祉課題を他人事とせず、貫校区に住む人々が主体となり地域福祉を担う各団体と共に地域の困りごとを「発見」、「共有」、「話し合い」、「解決」のシステムを構築し、顔の見える安心できる福祉のまちづくりを目指してまいります。そして、北九州市の地域福祉計画及び北九州市社協の地域福祉活動計画と連携し、住民主導による地域福祉活動を進めるため、新しい小地域福祉活動計画を策定しました。

この計画の策定にあたりご尽力いただきました本計画策定委員会委員並びにご意見をお寄せいただきました関係者の皆様に、感謝を申し上げます、ご挨拶といたします。

貫校区社会福祉協議会
会長 嶋津 政美



貫校区社会福祉協議会
会長 嶋津 政美

もくじ

ごあいさつ	…… 1 p
第1章 計画策定にあたって	…… 2 p
1 計画の性格	
2 計画の期間	
3 計画の策定経過	
第2章 貫校区の現状と課題	…… 3 p
1 地域の特性や福祉課題	
2 人口・世帯数・高齢化率	
3 社会資源	
第3章 計画体系	…… 4 p
1 基本理念	
2 基本目標	
3 実施項目（体系図）	
4 重点実施項目	
第4章 計画の推進	…… 7 p
1 計画の承認と周知	
2 計画を推進するための体制	
3 第二次計画の策定	
4 貫校区小地域福祉活動計画 推進委員会委員名簿	
5 貫校区小地域福祉活動計画の 策定状況	

貫校区のキャラクター
ヌッキーまん



第1章 計画策定にあたって

1 計画の性格

(1) 住民発信の行動計画

この計画は、貫校区の様々な福祉課題を解決するために、住民や民間団体が将来の見通しを持って計画的に活動しようとするための民間の行動計画です。

(2) 小地域の生活を支える計画

この計画は、貫校区に住む人たちの「生活」を支えることを活動の原点とする計画です。

(3) 北九州市及び北九州市社会福祉協議会・小倉南区社会福祉協議会と協働する計画

この計画は、北九州市及び北九州市社会福祉協議会・小倉南区社会福祉協議会の計画と連携しながら地域福祉活動を進めていく計画です。

(4) 貫校区社会福祉協議会の活動指針となる計画

この計画は、社会福祉協議会が地域福祉推進の中核的な団体としての方針や発展強化の道筋を明らかにする性格を有します。

2 計画の期間

令和5年度～令和9年度までの5か年とします。計画の期間中、地域を取り巻く状況に大きな変化があれば、見直しを行います。

3 計画の策定経過

貫校区では、地域福祉活動に取り組んでいる関係機関・団体等からの意見を踏まえ、民間の地域福祉に関する計画を策定するため、貫校区小地域福祉活動計画策定委員会を設置しました。令和4年3月23日に立ち上げた同委員会において、13回に及ぶ協議の上、貫校区小地域福祉活動計画を策定しました。(参考資料を参照)



第2章 貫校区の現状と課題

1 地域の特性や福祉課題

貫校区は小倉南区の東、企救富士と呼ばれる貫山の麓に位置しています。蛍の舞う貫川をはじめとする緑豊かな自然や、長野城址跡など歴史的な資源、文化記念公園など、多様な魅力を持つ校区です。

校区内は高齢者向けの福祉施設は充実していますが商店などはきわめて少なく、交通の便についても路線バス運行本数の減少や、そもそも路線バスが通っていない地区もあり、買い物や通院などはとても不便な状況です。

貫校区では平成6年よりふれあいネットワーク活動が展開されています。しかし、少子高齢化の影響で、校区内の高齢化率の上昇、高齢者の一人暮らしや高齢者のみの世帯の増加や福祉協力員等の福祉活動者の平均年齢も上昇傾向にあります。そのため、福祉協力員やニーズ対応員等の負担が大きくなる一方であり、福祉活動者の早急な育成と新たなニーズへの対応策が必要となっています。

2 人口・世帯数・高齢化率

	2002年 (平成14年)	2012年 (平成24年)	2022年 (令和4年)
人口	9,315	9,807	9,379
世帯数	3,401	4,156	4,430
高齢化率	16.43%	33.28%	33.20%

3 社会資源

小学校	貫小学校
中学校	田原中学校
福祉施設	総合福祉施設 おきなのだ 介護付き有料老人ホーム 芝津の郷 介護付き有料老人ホーム オーケストラ 介護付き有料老人ホーム さわやか螢風館 北九州サニーホーム、べっぷデイサービス、愛と感動のデイサービス
医療機関	岩本クリニック いがらし内科ハートクリニック もり歯科医院
主な商店等	ファミリーマート 中貫二丁目店、セブンイレブン 小倉長野店 糸長米穀店、奥田牧場 (協力店) ニューヨークストア貫店、庄屋、北九州農協、GOYO
協力施設	貫保育所、洗心保育園、貫市民センター、小倉カンツリー倶楽部
協力団体	小倉南消防団 第6分団・第7分団、貫小学校 PTA、貫小親父の会 田原中学校父母教師会、小倉東高等学校ボランティア部、
主な行事	貫川ほたるまつり、区民体育祭、ふれあいグラントゴルフ大会、ふれあい文化祭



第3章 計画体系

1 基本理念 「声かけて 笑顔ひろがる 貫校区」

貫校区では、住民同士の交流や繋がりを大切に、子どもから高齢者まで、障害のあるなしに関わらず、誰もが安心して生活できるまちにしたいと願っています。そこで「声かけて 笑顔ひろがる 貫校区」という言葉を基本理念として、第一次計画を推進していきます。

2 基本目標

(1) 絆を深め住みよい楽しいまちづくり ～コミュニケーション 世代間の交流～

校区の行事やサロン活動を利用し、若い世代や子どもも参加したくなる楽しく次に繋がるコミュニケーションの場をつくります。

(2) 笑顔の見えるお隣さん ～生活支援～

生活支援サービスの充実に向け、利用しやすい環境の整備とボランティアの掘りおこし、楽しくボランティアが活動できる環境を整えます。また、移動販売の充実を目指します。

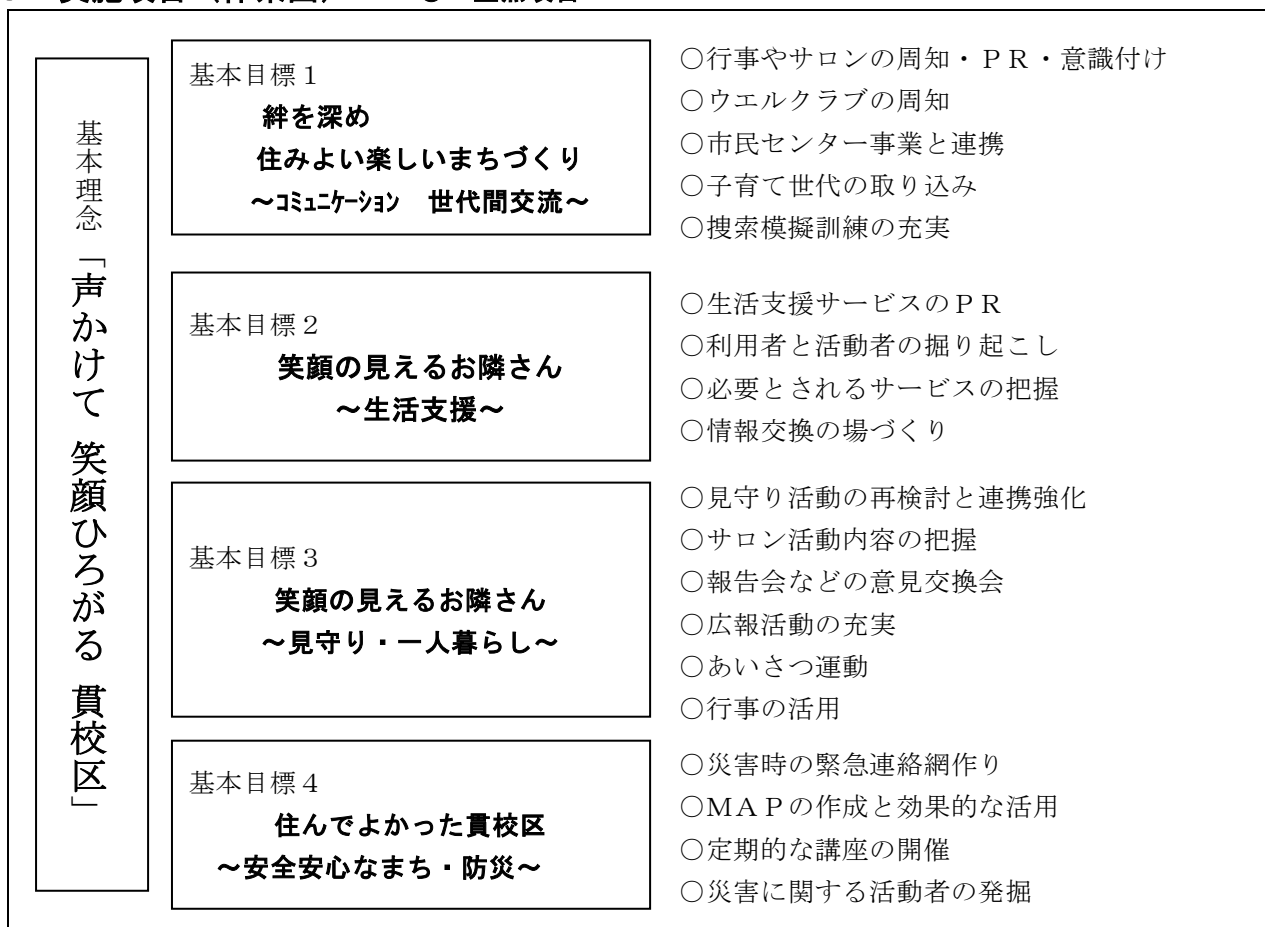
(3) 笑顔の見えるお隣さん ～見守り・一人暮らし～

サロンを充実させ気軽に誰でも参加できる場所作り・仲間作りを目指します。また、ふれあい委員だけでなく、ボランティアと協力できる体制づくりを目指します。

(4) 住んで良かった貫校区 ～一人も取り残さない 安全で安心なまちづくり～（防災）

災害に備え、高齢者や一人暮らし世帯が安心して暮らせる体制づくりを目指します。

3 実施項目（体系図） ◎…重点項目



4 重点実施項目

重点実施項目 1		絆を深め住みよい楽しいまちづくり ～コミュニケーション 世代間の交流～						
1 課題・背景（重点項目とした理由）								
高齢者世帯や一人暮らし世帯が多くコロナ禍で交流も減り、ご近所でも顔と名前が分からない、話したいが声をかけられないため、誰でも気軽に参加できる交流の場が欲しいとの声が多く上がっている。また高齢者と子ども達との交流の場も減り世代間交流がなくなってきた。								
2 活動の方針・目標								
校区の行事やサロン活動を利用し参加しやすいコミュニケーションの場をつくる。 若い世代や子どもも参加したくなるような楽しく次に繋がる行事を考える。								
3 段階的な取り組みの年次計画								
取り組み内容	連携する機関	R5	R6	R7	R8	R9	5年後の達成目標	
行事やサロンの周知・PR 意識付けをしていく	まちづくり 協議会 市・区社協 市民センター 老人クラブ 行政 学校 商店							1町内に1サロンをつくる
ウエルクラブの周知								誰もが知ってるウエルクラブ
市民センター事業との連携								陽だまりのような市民センター
子育て世代の取り込み								地域活動への積極的な参加
搜索模擬訓練の充実								搜索体制の確立

重点実施項目 2		笑顔の見えるお隣さん（生活支援）						
1 課題・背景（重点項目とした理由）								
貫校区はバスの本数が少なく車がないと通院や買い物がとても不便ですが、年々高齢化が進み運転免許証を返納する方も増え、生活支援が重要になってきました。								
2 活動の方針・目標								
生活支援サービスを利用しやすい環境とボランティアの掘り出し、楽しくボランティアが活動できる場所をつくる。移動販売の充実。								
3 段階的な取り組みの年次計画								
取り組み内容	連携する機関	R5	R6	R7	R8	R9	5年後の達成目標	
生活支援サービスのPR	まちづくり 協議会 市・区社協 市民センター							認知度を上げ、地域の活動者・サービスを充実させる
生活支援サービスの利用者と活動者の掘り起こし								
必要とされる生活支援サービスの把握								
ボランティアサークルとの連携、サークル作り								
情報交換の場づくり								



重点実施項目 3	笑顔の見えるお隣さん（見守り・一人暮らし）							
1 課題・背景（重点項目とした理由）								
高齢化が進み、高齢者のみ世帯や一人暮らしが増加しているなか、元気なお年寄りをどうやって増やすか？家から出て来ない人とどうやって地域との繋がりを作っていくのが課題になっている								
2 活動の方針・目標								
サロンを充実させ気軽に誰でも参加できる場所作り、仲間作りを目指す。 貫校区内の見守り活動やボランティア等の協力体制を見直す								
3 段階的な取り組みの年次計画								
	取り組み内容	連携する機関	R5	R6	R7	R8	R9	5年後の達成目標
見守り活動の検討	あいさつ運動	民生委員 福祉協力員 ニーズ対応員 サロン 市民センター 自治会						顔がわかる関係づくり
	民生委員と福祉協力員の連携（町内活動共有）							ネットワークの活用と強化
	ふれあい委員会、ボランティアサークルとのネットワーク作り							誰もが活動者
	サロン活動内容の把握 報告会・意見交換会							状況に応じた対応ができる場所づくり
	行事活用の見直し							
	広報活動 センターだよりの活用							活動内容の発信と周知

重点実施項目 4	住んで良かった貫校区～一人も残さない安心安全・防災なまち							
1 課題・背景（重点項目とした理由）								
避難する時に声掛けが出来るか？夜中は寝ているし緊急アラームが鳴った時はどうするか？ 大雨や地震時など具体的な活動の基盤づくりが必要								
2 活動の方針・目標								
高齢者や一人暮らし世帯を把握し、緊急時に少しでも早く非難し家族に連絡が取れるようにする								
3 段階的な取り組みの年次計画								
	取り組み内容	連携する機関	R5	R6	R7	R8	R9	5年後の達成目標
	行事の見直しと活用	市民センター まちづくり協議会 市・区社協 自治会						効果的なMAPの活用 災害模擬訓練の実施 活動者の把握
	災害時の緊急連絡網作り							
	わかりやすいMAPの作成							
	定期的な講座の開催							
	災害に関する活動者の発掘							



第4章 計画の推進

1 計画の承認と周知

- ① 貫校区社会福祉協議会総会等を通じた社会福祉協議会活動者への計画の承認と周知
- ② 計画を実施する上で必要な関係機関・団体への周知・協力依頼
- ③ 計画書概要版の作成、配布、ホームページやSNSを通じた校(地)区住民への周知
その他、計画を推進していくために、計画の広報活動を行います。

2 計画を推進するための体制

(1) 小地域福祉活動計画推進委員会の設置

計画を推進していくために、貫校区小地域福祉活動計画推進委員会を設置し、必要に応じ、以下のような計画の進行管理を行います。

- ① 関係機関・団体との連携
- ② 計画内容の具体的な計画、実施
- ③ 進行管理の実施

(2) 計画の評価

計画期間の中間時点では計画全体の中間見直しを、最終年度には総括評価を行います。

3 第二次計画の策定

第一次計画の推進状況を踏まえて、第二次計画の策定期限に第二次計画策定委員会を設置し、次期計画策定に向けて協議を進めていきます。

4 貫校区小地域福祉活動計画推進委員会委員名簿

	氏名	所属団体	役職	備考
1	嶋津 政美	貫校区社会福祉協議会 貫校区まちづくり協議会	会長	委員長
2	松本 敦子	貫校区社会福祉協議会 貫地区民生児童委員協議会	副会長 会長	副委員長
3	片山 恒雄	貫校区社会福祉協議会	副会長	
4	池田 幸男	貫校区社会福祉協議会	副会長	
5	金丸 勝利	貫校区社会福祉協議会	副会長	
6	大串 誠	貫校区まちづくり協議会	事務局	
7	田中 健一	貫校区老人クラブ連合会	会長	
8	戸根 繁	上貫第一町内会	会長	
9	山口 正樹	長野東町町内会	会長	
10	中島 芳春	貫弥生が丘自治会	会長	
11	甲斐 武敏	津田グリーンタウン自治会	会長	
12	早田 康宏	長野本町町内会	会長	
13	吉元 忠行	上貫西町内会	会長	
14	岩本 勝利	カントリータウン自治会	会長	
15	松岡 洋治	リヴィエール小倉東自治会	会長	
16	田中 健一	貫校区老人クラブ連合会	会長	
17	辻 寿枝	貫市民センター	館長	
18	西 恵子	貫校区社会福祉協議会	生活支援員	
19	馬場 澄子	貫校区社会福祉協議会	会計	



【貴校区小地域福祉活動第一次計画 策定会議に参加して下さった皆さん】

長野本町 早田幸子 植村恵子

上長野 松尾悦子 廣田敬子 丸田直子 清永ひとみ

長野東町 池永昭二 松崎幸男

上貫第二 岡村隆志 近藤康憲 橋口まり子 松岡タマミ

上貫西 山下町子 花本典子 浅山里恵 赤木京子

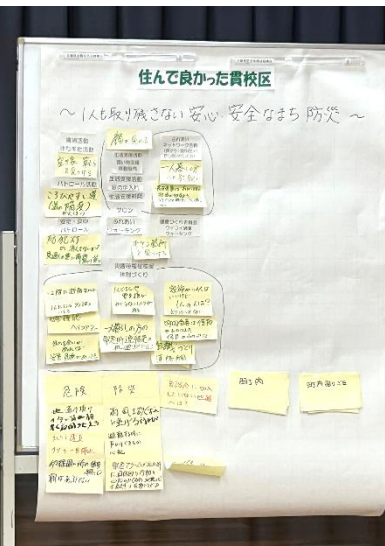
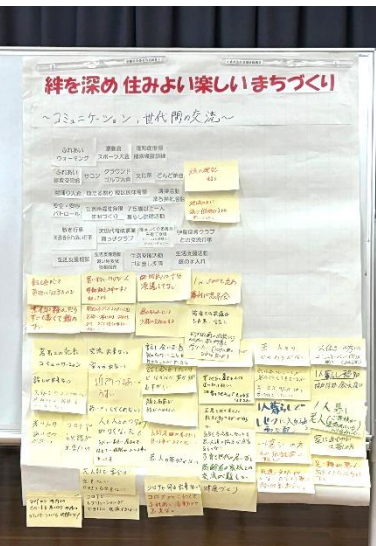
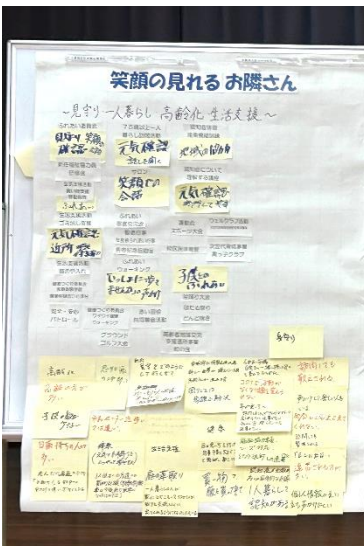
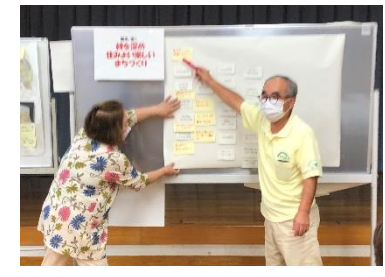
かとりヶの 岩井蓉子 赤平啓子

中貫しろはと町 仲俊子 柴崎真佐美 佐々木英雄

中貫 武内章一 武内紀美代 宮下良子 矢野千穂 清水裕二

津田グリーンヶの 安高みき子 栗林貞子 貫栄町 土井すみ江 鳥越正枝

貫弥生が丘 津毛かずえ 本溜真由美 林理枝 福永則子 竹下照美



5 貫校区小地域福祉活動計画の策定状況

回	開催日	参加人数	主な協議事項
1	令和4年 3月23日	人	役員会 1 小地域福祉活動の概要説明
2	令和4年 4月15日	6人	役員会 1 計画策定スケジュールについて 2 策定委員会メンバーについて
3	令和4年 5月21日	42人	ふくしのまちづくり講座① 1 開会・オリエンテーション 2 講話「気づく力を高めよう！ ～地域が『丸ごと』つながり互いに助け合う、 地域共生社会を目指して～
4	令和4年 6月18日	34人	ふくしのまちづくり講座② 1 講話とグループワーク 「よりよい貫校区に向かって！」 ～みんなが安心して暮らせる 支え合いのまちづくり」
5	令和4年 6月29日	10人	策定会議 1 第3回講座の内容等の検討
6	令和4年 7月23日	29人	ふくしのまちづくり講座③ 「今後の貫校区 ふくしのまちづくり計画」 1 小地域福祉活動の説明 2 グループワーク 3 次回に向けて
7	令和4年 9月12日	5人	役員会 1 計画策定過程の確認（問題点の確認） 2 今後のスケジュールについて
8	令和4年 9月17日	25人	策定会議 グループワーク 「貫校区 ふくしのまちづくり計画」について 1 スローガンについて 2 校区の行事や取り組みを計画に活かそう！
9	令和4年10月17日	5人	役員会 1 重点項目の整理 2 策定会議の役割分担
10	令和4年10月29日	14人	策定会議 グループワーク 1 重点項目の決定と5年間の取り組み
11	令和4年11月29日	4人	役員会 1 基本理念の決定 2 計画書作成に向けての役割分担
12	令和5年 2月 8日	6人	役員会 1 計画書（案）の校正 2 策定会議に向けて
13	令和5年 2月25日	23人	策定会議 貫校区一次計画について 1 計画書（案）の説明 2 グループワーク（プラン名の検討）



★社会福祉協議会のイメージキャラクター★



『プチボザウルス』 (Petit vo saurus)

Petit (プチ：ちっちゃな)

Volunteer (ボランティア)

Saurus (サウルス≡恐竜)

貫校区社会福祉協議会

〒800-0243 北九州市小倉南区西貫1丁目11番1号 貫市民センター内
TEL 093-475-6070 FAX 093-475-6071

小倉南区社会福祉協議会

〒802-8510 北九州市小倉南区若園5丁目1番2号
TEL 093-951-5388 FAX 093-951-5391

北九州市社会福祉協議会

〒804-0067 北九州市戸畑区汐井町1番6号ウエルとばた内
(代表) TEL 093-882-4401 FAX 093-882-3579
(地域福祉部) TEL 093-882-4425 FAX 093-873-1351、
<http://www.kitaaq-shakyo.or.jp/>

